

かさはな通信 NO1 には

仏法聴聞へのお誘いは、まるで風が舞い散る花びら色いすこへともなく運んでゆくように、誰からともなく誰へともなく... 如來さまの御はからい、お仕事... そんな気持ちで月一度お祈りに届けていたはずですよ」と記しました。

そして実はもっと深いところもあるのであります。No.10にこう記させてもらいました。

「又風吹散華」又風吹いて花を散らすと無量壽經に詩、という。人の生れ人の心も永遠に花吹雪である。人はその花の上を強く踏んで歩む。踏んだ時は4寸も沈むというが、足を浮かせば足跡形もなくなるという。糸と糸の心は毎日風吹いて花を散らせている。死ぬるまで風吹いて花を散らさずであらう。その花の中を人は歩みつづける」(高き一也師)と。

・「御心を聞く会」9月28日午後1時～

「浄土にいつい」渡辺愛子先生

秋は人生を深く思う季、どうぞお祈り下さい。